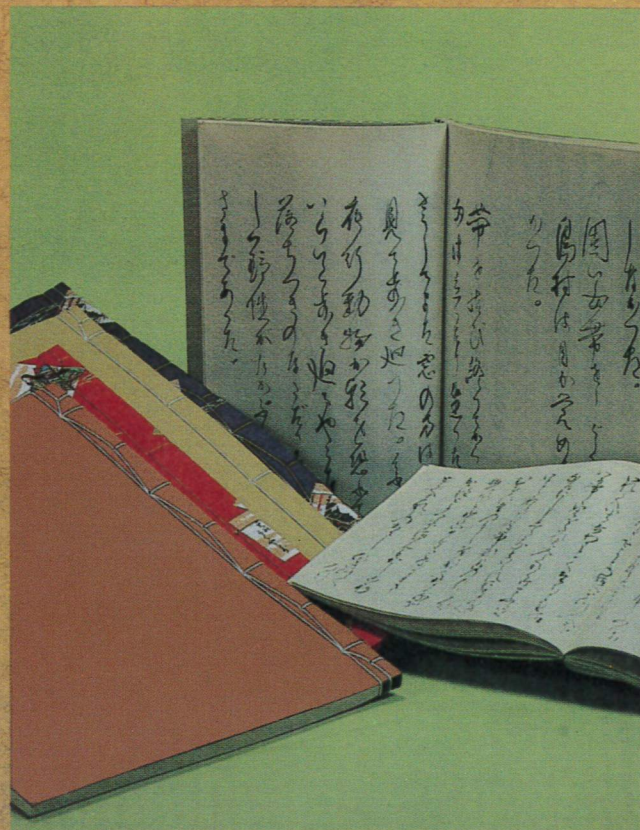


和本のつくりかた

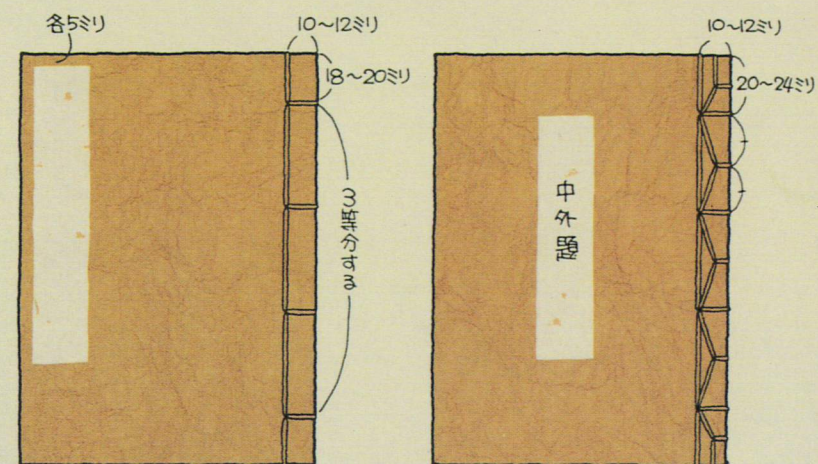


和本の種類

和本は中国からわが国に伝わったもので、様々な様式のものがあります。

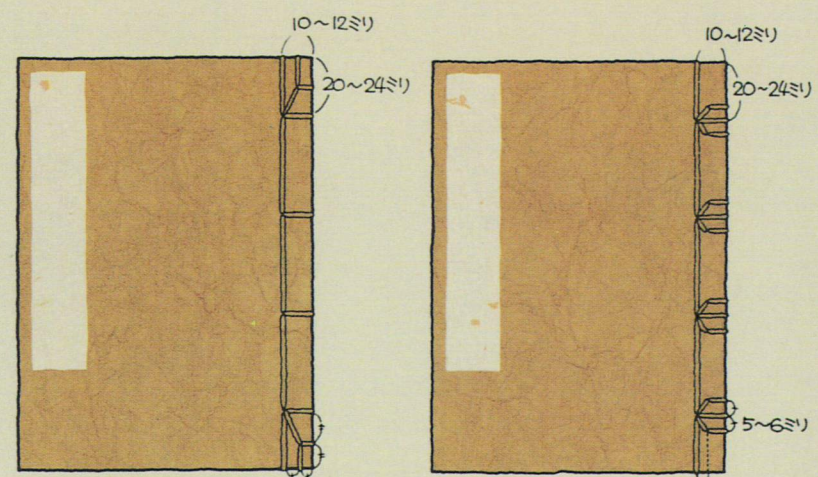
室町時代には紙を半分に折って作る方法が行われるようになり、これが今一般に言われている袋綴じ（ふくろとじ）の様式です。これは紙の片面に2頁ずつ書いて二つに折り、順番に丁合をとって一冊分として裏表の表紙を当て背を糸で綴じたものです。

和本の綴じ方には種々の様式がありますが、一般に多く見られるものは四つ目綴じで綴じ目が四つあります。この他に亀甲綴じ・麻の葉綴じ・こうき綴じ・大和綴じなどと呼ばれる様式のものがあります。



四つ目綴じ

麻の葉綴じ



康熙綴じ

亀甲綴じ

綴じ幅の3等分

〒173-0012 東京都板橋区大和町28-11

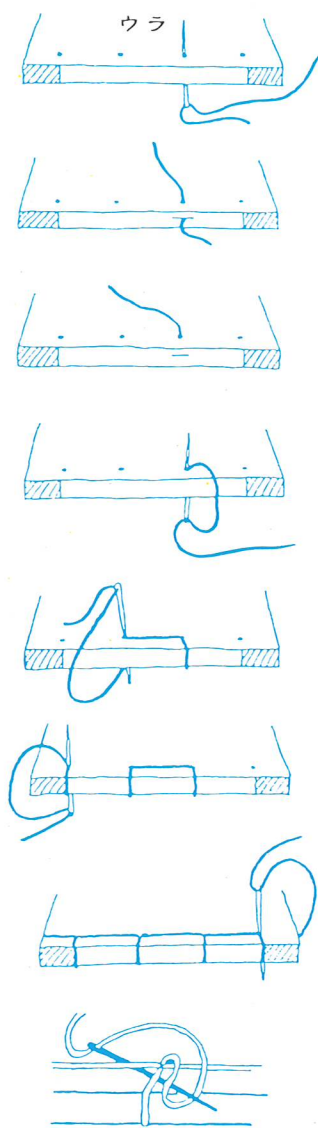
東京都製本工業組合

TEL 03 (5248) 2451 (代)

和とじ本（四つ目綴じ）のつくり方

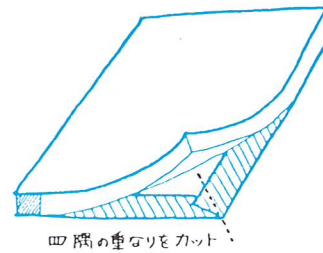
（和本は特別な道具もいらず簡単につくることが出来ます）

9. とじ



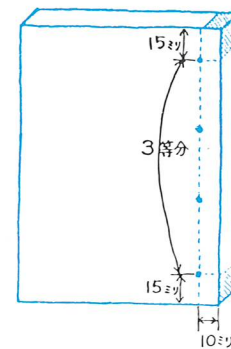
- （糸の長さは本の長さの約3倍）
- ① 裏を上にして右から2番目の穴に下から入れる
 - ② 糸を引き2～3センチ残して背の間から外に出す
 - ③ 糸の先にのりをつけ背の中に入れる
 - ④ 背を一周する
 - ⑤ 左側の穴にはいり背を一周する
 - ⑥ 左端の穴にきたら天を一周する
 - ⑦ ひとふでがきの要領ですすむ
 - ⑧ 最初の穴に戻ったら糸を2本かけてできた輪に入れて結ぶもう一度表側に戻してぎりぎりに糸を切る

7. 角ぎり



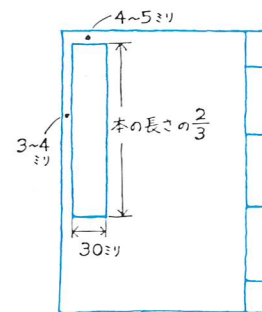
四隅の重なったところをはさみで斜めに切り落とす
（切り終わったら本文の背と小口に5ミリくらいずつ糊をひいて貼り合わせる）

8. 穴あけ



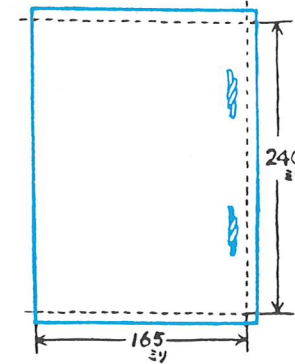
目打ちでとじ穴をあける

10. 外題貼り



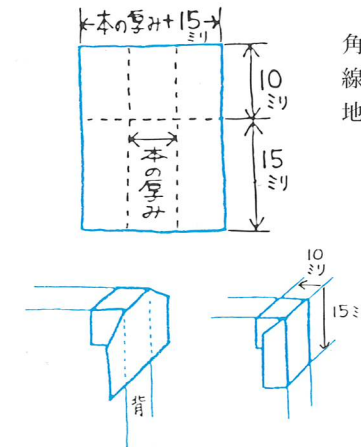
表側の左上隅に題せんをうすのりで貼る

4. 化粧裁ち



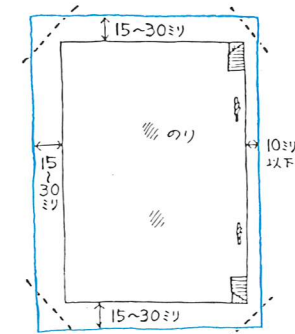
背、天、地側を5ミリくらいカッターで裁ち落とす
（定規で本を強くおさえ、1枚ずつ切るつもりで）

5. 角ぎれ貼り



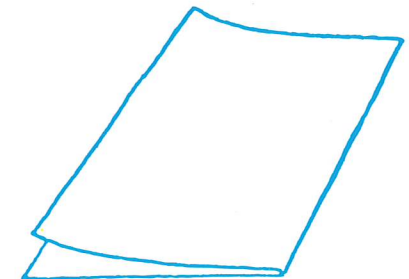
角ぎりを貼る位置に線をひき背側の天、地に濃いので貼る

6. 表紙がけ



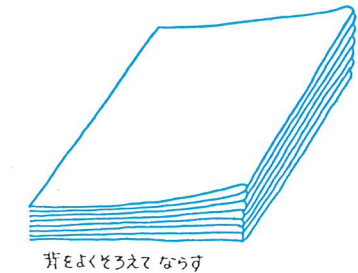
表紙の折り返し分は、背側は10ミリ以下、天、地、小口側は15~30ミリくらいとする
表紙のウラに2ヶ所のりをつけ中身を固定し、背、天、地、小口の順にかけへらで折り返す

1. 折り



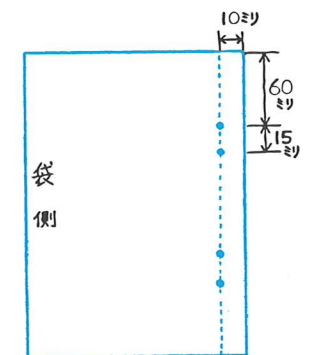
左下隅に合わせて二つ折りにする

2. 均し



袋側を良くそろえ、たたいて平らにする

3. 中とじ



袋側（小口）をよくそろえ、柏棒で目打ちをたたいて穴をあけ、こよりで下綴じをする
（見返しをつける場合は袋側にそろえる）